

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

特定非営利活動法人 亀岡人と自然のネットワーク

## 1 事業の成果

今年度も琵琶湖淀川水系で唯一となったアユモドキ個体群の生息環境の保全、調査を中心に行ってきた。

本年も6月2日にラバー堰が起立された。渴水した下流部から35尾のアユモドキが救出され、上流に放流された。6月18日に大雨によりダムが自動倒伏し、保津川公園内の実験地から102尾のアユモドキを救出したが、18尾の斃死個体を確認され、繁殖に与える悪影響が懸念された。

6月の仔稚魚調査では、曾我谷川の調査地点で計4尾、実験地で計10尾が確認された。

秋の推定個体数調査の結果は、当歳魚1,131尾、1歳以上魚404尾であった。当歳魚は、昨年の1,029尾と同程度だったが、1歳以上魚は昨年の668尾から大きく減少した。前年生まれの成長の早い個体も加入したと思われ、繁殖に参加できる親魚はこれより少ないと想われた。

今年度も、アユモドキの減少原因調査、増殖方策検討のため、桂川合流部と曾我谷川上流部で移動状況調査、生息地改善対策等を行った。さらに、前年度に継続して京都先端科学大学と協働して、曾我谷川河岸に新たな繁殖適地を造成する実験を実施したところ、一部でアユモドキ仔魚が確認された。

また、京都府南丹土木事務所の協力を得て主生息場左岸の切り下げと繁殖環境改善、沈石の石起こし作業などを実施した。

特定外来魚の駆除活動は、12月に五反田池で実施した。この池は何度も池干しをして駆除してきたが、周辺の池に送水するためのポンプ施設やコンクリート水路に残留するブルーギル16500尾余りを駆除した。

亀岡市等と連携しSAVE JAPANプロジェクトの支援を得て、アユモドキなど自然環境保全に関する普及啓発活動を行った。令和元年に竣工したサンガスタジアムのアユモドキ飼育・啓発支援活動を継続している。

亀岡市内には希少種ヤマトサンショウウオが生息しており、夏原グランツの支援を得て周辺の動植物調査、市民参加の啓発活動に取り組んだ。

令和8年度の秋に全国都市緑化フェアが保津川公園を含む会場で実施されることが決定し、公園整備事業が計画されている。当NPOからは、アユモドキを含む希少な自然環境を保全する整備計画を要望している。

アユモドキ生息域とその周辺では、公園整備や圃場整備、道路、河川改修事業が計画及び実施されている。今後人と自然の共生を進めるため、アユモドキなど希少種の生息環境保全に取り組んでいきたい。

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載 した事業)	具体的な事業内容	当該事業の 実施日時	実施 場所	従事者 の人数	受益対象者 の範囲及び 人数	事業費の金額 (概算) (単位:千円)
(1)野生生物、 生態環境等に 関する調査	口丹波地域アユモドキ 保全回復事業	令和6年5月1日 ～ 令和7年3月25日	曾我谷 川周辺	200人	京都府民 260万人	2,150
	長尾山生物多様性事業	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月30日	亀岡市 内	40人	亀岡市民 9万人	440
	その他生態系保全事業	令和6年10月1日 ～ 令和6年12月25日	亀岡市 内	30人	亀岡市民 9万人	1,070
(2)野生生 物、生態環境 等に理解を深 める啓発活動	普及啓発活動	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日	亀岡市 内	40人	亀岡市民 9万人	400